

2024 年度上半期 特定機能病院監査報告書

－慶應義塾大学病院－

2024 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日までの 2024 年度上半期の慶應義塾大学病院特定機能病院監査委員会（以下「監査委員会」という）における監査結果を以下のとおり報告する。

1. 監査の概要（方法およびその内容）

医療法施行規則第 15 条の 4 の 2 に規定される監査委員会として慶應義塾が設置する監査委員会において、管理者等からの報告に基づき、医療安全管理責任者業務、医療安全管理委員会活動、医療安全管理部等業務、医薬品安全管理業務、医療機器安全管理業務、医療放射線安全管理業務、感染制御業務等を監査した。監査対象となる責任者、部門、委員会の業務の執行状況等について、2024 年 7 月 29 日に開催した監査委員会において、当該担当者等から資料の提出および報告を受け、必要に応じて説明を求めた。

2. 前回指摘事項の改善状況

前回の指摘事項について、以下のとおり報告を受けた。

(1) インシデント・アクシデント報告

- ・インシデント・アクシデント報告の入力フォーマットを改修完了し運用開始。
- ・「医療安全貢献賞」「Good job 賞」表彰の継続。
- ・オカレンス報告の推奨。
- ・プレアボイド報告をインシデント報告の患者影響度レベル 0 にて集計。

(2) 超緊急連絡値（パニック値）および病理検査結果

[超緊急連絡値]

- ・パニック値発生報告翌日の医師対応記載欄が未回答に対し、ロボティック・プロセス・オートメーション (RPA) を用いてメッセージを送る運用を開始。対応率は向上している。

[病理検査]

- ・全体的な対応率向上のため、リマインドの前倒し等で一層の向上が進んでいる。

(3) 病棟薬剤師

- ・「持参薬鑑別業務」「入院化学療法前の説明」の薬剤師関与を数値化する調査実施。
- ・薬剤師であることが一目でわかるように白衣の特徴を案内用紙に明記。

(4) 医療機器に関するインシデント

- ・医療機器のインシデント分類の推移を確認。
- ・過去 3 年間の 3b 以上のインシデントは既に対応がなされていることを確認。

(5) X 線撮影の再撮影

- ・全体の再撮影率は 8%～9% で推移していることを確認。

- ・肘側面と膝側面の再撮影率が高く、「撮影技術の標準化」を進める。

(6) 手指衛生

- ・高度な薬剤耐性菌の院内拡大はないが、手指衛生遵守率90%以上を目指す。
- ・声かけ運動をする強化月間、80%未満の部署に対する再試月間を設けて遵守率向上に努める。

3. 監査項目

以下の各監査項目に対し、業務および活動状況の報告を受けた。

- (1) 医療安全管理委員会活動状況
- (2) 医療安全管理部等業務状況
- (3) 医薬品安全管理業務状況
- (4) 医療機器安全管理業務状況
- (5) 医療放射線安全管理業務状況
- (6) 感染制御業務状況
- (7) その他必要と思われる事項

4. 監査結果

監査委員会において、2024年度上半期（4月～9月）における医療安全管理責任者業務、医療安全管理委員会活動、医療安全管理部等業務、医薬品安全管理業務、医療機器安全管理業務、医療放射線安全管理業務、感染制御業務等について監査した結果、医療に係る安全管理が適切に実施されていることを確認した。

＜指摘事項＞

- ・インシデント・アクシデント報告について、報告数が横ばいで推移しているため、職種別、レベル別の報告数を分析し、レベル0だけでなく全体的な報告数を増やしていただきたい。
- ・医療機器のインシデントについて、人工呼吸器やモニター等における課題は非常に多いため、レベル別の傾向をお示しいただきたい。
- ・病理解剖等について、特に予期せぬ死亡の際には、医療安全の担当者が第三者の立場として、病理解剖やAiについて丁寧に説明することで理解を得られることもあるため、診療科とより一層の連携を図っていただきたい。
- ・身体抑制について、「身体抑制を行わない」基本方針であることは理解できたが、その姿勢をマニュアルにより強く打ち出すことを検討していただきたい。また、同意書を取得したとしても、実際に身体拘束を行う際に、家族へ丁寧な説明を行い、それを記録に残す体制を強化いただきたい。
- ・RRTも含めた院内急変時対応ルール等について、次回の監査委員会で報告いただきたい。
- ・手指衛生について、部署により遵守率に差があり、遵守できない理由がどこにあるのか、踏み込んで可視化していただきたい。

- ・針刺しについて、横ばいで推移しており、報告数を減らす検討をしていただきたい。

<その他の事項>

- ・超緊急連絡値(パニック値)について、ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)が介入し、後追いの仕組み等ができれば、医療界に大きく貢献するため、先端的な発展を期待したい。
- ・病棟薬剤師について、更なる活動の場が広がるよう期待したい。
- ・X線の再撮影について、整形外科との横の繋がりを強化し再撮影率低減を期待したい。
- ・臨床工学技士について、医療機器は医療事故に関わる大きな領域でもあり、更なる病棟への関与を期待したい。

2025年4月15日

慶應義塾大学病院特定機能病院監査委員会

委員長 山口 徹
委 員 市村 尚子
委 員 宇都宮 啓
委 員 宮沢 忠彦
委 員 山口 育子